



松進は他塾とココが違う

子どもたちの夢の実現に向けて私たちは日々指導を行っています。地域に根ざし、子どもと保護者の心に寄り添う姿勢は多方面において他塾と大きな違いを生んでいます。

今回は、そんな松進ならではの特色をご紹介します。

◆講師の質が違う！

上伊那地域には多くの学習塾がありますが、全員が専任である塾はほとんどありません。



私たちに任せてください

松進では、先生たちが生徒一人ひとりに向き合い、授業前には毎回丁寧な打ち合わせをして指導内容を確認しています。

豊富な経験と専門的な知識を活かし、中学・高校・大学入試まで、学習指導だけでなく面接や小論文を含む幅広い受験指導をしています。

◆指導の中身が違う！

松進が大切にしているのは、ただ教えることではありません。



「どうすれば学力が伸びるのか」との問いに真剣に向き合い、その子に合った伸ばし方で指導をしています。

小学生には毎回の理科実験で知的好奇心を刺激し、中学生には点数

◆授業外のサポートが違う！

保護者にはLINEやメールを通じて成績の分析や日頃の様子を丁寧にお伝えし、情報を共有。

「勉強のことだけでなく、学校や家庭のちょっとした悩みにも相談に乗ってくれる」「先生が子どもの心に寄り添ってくれて安心」——そんな声が保護者から多く寄せられています。

子どもたちにとっても、「勉強以外のことでも頼れる存在」として心の支えとなっていることも松進の強みの一つです。

◆積み重ねた信頼が違う！

松進は今年で創立47年。「親が通っていたから子も通わせたい」というご家庭も多く見受けられます。

面談時の会話で「私も昔先生に教わっていたから安心です」という保護者の声も聞かれます。

松進はこれからも生徒一人ひとりと向き合い、子どもたちの学びを支え続けていきます。



資格取得は大切です

近年では、入試制度の多様化に伴い、資格の持つ意味がより注目されるようになってきました。

また、資格取得は学習内容の定着度を客観的に示すだけでなく、子どもたちに達成感や自信をもたらす大きな機会となります。「頑張ったから検定に合格できた」という実感は、その後の学習意欲を高める原動力となることでしょう。

《松進実施の検定の日程》

10月4日（土） 英語検定
10月25日（土） 漢字検定
11月15日（土） 算数・数学検定
※算数・数学検定については、後日案内します。

夏休み明けテストの心得

「夏休み中も頑張ったのに、思ったほど点数が伸びなかった……」——そんな思いを抱いた中学3年生は少なくないでしょう。



実際、夏休み明けのテストは難易度が高めに設定される傾向があり、全体的に点数が伸びにくいのが特徴です。

しかし、点数が下がっても学年順位が上がっていれば、確実に実力はついています。



また、中学3年生の学習範囲は5教科すべてにおいて膨大です。

「今さら基礎なんて……」と思うかもしれませんが、応用問題を解くためには基礎力が欠かせません。

もし不十分だと感じているなら、継続して基礎を習得していくことが大切です。

さらに、目安として平日は4時間以上、休日はその倍の家庭学習時間を確保し、手をつけていない分野を計画的に進めていきましょう。

その時の注意は、松進で教えられた学習法で学習することです。

私たちも引き続き、子どもたちの学力向上を全力で支えていきます。

小論文・面接対策講座開催

現在、大学入試における推薦合格者の割合が年々高くなっています。推薦入試に合格するためには、小論文や志望理由書、面接を避けて通ることはできません。

しかし、学校や他塾の指導には具



体策がないため、困っている学生が数多くいます。

松進には10年以上前に塾長が独自に編み出した「目からウロコの小論文作成法」「志望理由書・面接必勝法」があります。今年は8月9日に伊那校で藤河先生がその秘策を指導しました。

以下、参加者の感想の一部です。

▼小論文・志望理由のそれぞれに関して、確実に必要になる基礎知識を教えていただきました。小論文の書き表し方の骨組みが志望理由の重要な考え方なので、受験の上でなくてはならないものを詰めこんだ講座であったように思います。



受検生ならば十二分に受講する価値があるものでした。

▼学校の先生と話したときに聞けなかったことを聞けて、講座を受けてよかったです。志望理由書もどう書き始めたらいいいのか全然わからなかったけど、どこから始めたらいいのか見えてきました。すごく心強いです。

▼志望理由書の講座は、今何が足りていないか、何を考えればいいのか、明確に把握することができました。小論文講座はシンプルかつ分かりやすい説明で流れがつかめました。

松進のしえんしえ

猛暑が続くある日の午後。「痛った……い……い……」

突然、教室の片隅から痛いような痛くないような声が！

コバヤン先生です。「ど、どうした……?」

と大槻先生。

「いや、足がつっちゃって……ドジャースの大谷さんみたいですね」
「どかが！大谷選手を親戚みたいに言っな！足のどかがつってる？」
「ここです、ここ！」
と痛いところを指さすコバヤン先生。

「ん？ここか？グイ！」
とでかい鏡餅のような親指で力任せに押す大槻先生。

「ギャオー！」

いつもの小さい声と違い、まったく余裕がない声でシャウトするコバヤン先生。

それを冷静に見ていた石川先生が、腕を組んで一言。

「小林先生の場合、原因は……運動不足ですね。なにか運動をやったほうがいいですよ」



「ほんとにほんとに」と運動不足の悠矢先生が偉そうに言っています。

すると三松先生が、私は足の専門家とも言わんばかりの顔で「コホン、えとですね、足がつるといのはですね、筋肉が硬直して……」

そこになぜか

木刀を持ちながらヨロヨロと歩く三沢先生が登場。大爆笑の先生たちでした。

